

## 2) 伊計島と宮城島一帯に発生した赤潮の原因生物について

伊野波 盛 仁

49年6月3日、与那城村役所から赤潮原因生物について同定を依頼された。検体は2日の朝採集され、翌日の3日当水試に持参されたものである。その間何らの保存処置もされていなかった。結果は次のとおりである。

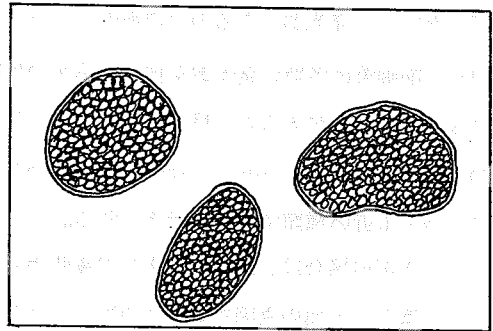
### 観 察 の 結 果

検体は瓶詰めになっているが、赤褐色乳液状である。腐敗臭。検鏡の結果、大部分分解しているが、その中に下記の形状をしたものが多数認められた。

腔腸動物の初期発生段階の浮游幼生であると思われる。

これに似た赤潮現象は、昨年同時期にこの海域で見られたようであり、また石垣島沿岸でもこの季節にみられるとのことである。

本赤潮の海象面からの原因としては、降雨による海表面の低かん水化によって、上記浮游幼生が一時的にへい死したと推測される。



今回みられた赤潮の原因生物 径 100~300 $\mu$

しかし、種類の同定や発生の機序については今後とも詳細な検討が必要である。

参考文献 岡市友利 水産生物を指標とする瀬戸内海汚染に関する研究 1927年